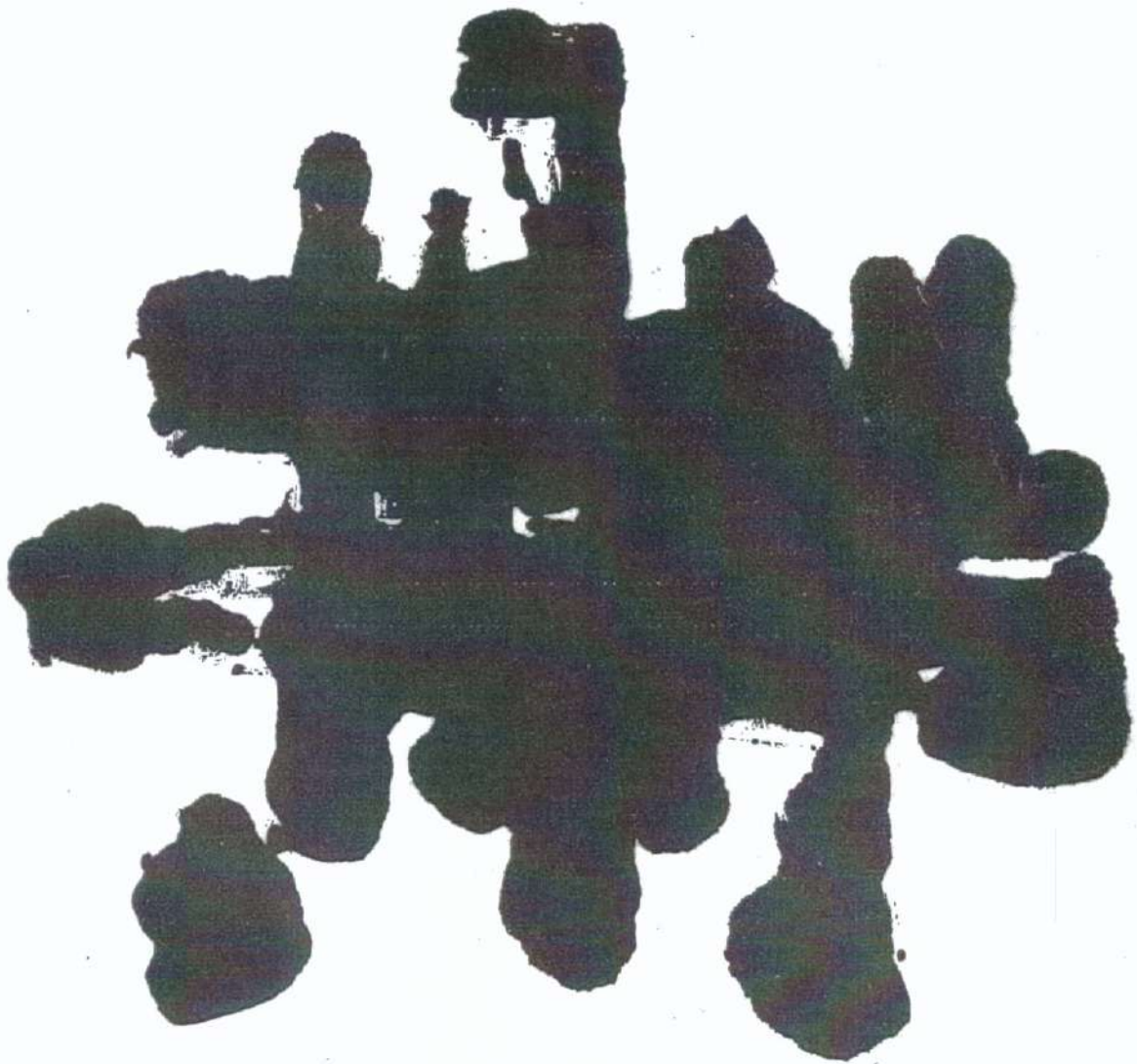


第4回 国際語劇祭



10 / 25 ~ 26

砂防ホール

フランス文化研究会

ロシア・ソヴィエト研究会

S. E. L. F.

ドイチェル・リンク

スペイン語文化研究会

E. S. S.

も く じ

語劇祭によせて.....	1
学 長 大 泉 孝	
外国語学部長 宇 多 五 郎	
語劇祭委員会委員長 柴 野 邦 彦	
回 想.....	2
第一回委員長 金 子 有 一	
第二回副委員長 林 由 夫	
第三回委員長 山 本 良 平	
楽しい思い出.....	4
諸 先 輩	
フランス文化研究会.....	6
気で病む男	
ロシア・ソヴェト研究会.....	9
ごきげんよう	
ドイツェル・リンク.....	12
青い麦わら帽子	
スペイン文化研究会.....	15
作りあげた利害	
E・S・S.....	18
レプリコン	
英語学会.....	21
うわさは拡がる	
編 集 後 記	23
地 図	24

語 劇 祭 日 程 表

10. 25 (金)

2.00 — 3.00 SELF

3.45 — 4.45 E・S・S

5.30 — 8.30 ロソ研

10. 26 (土)

1.00 — 3.15 フラ研

4.00 — 5.45 スペ研

6.30 — 8.30 ドイツェル

語劇祭によせて

学 長 大 泉 孝



上智の語劇は随分古い歴史をもっています。私をはじめて上智でみた語劇は約四十年も前のことですから。確かその時上演されたのはドイツ語ではシラーのウィリアム・テル、英語ではディッケンズのクリスマス・Carolであったと思います。今でも当時の場面をありありと目に浮べることができます。その以前にも語劇をやったのかも知れませんが、ともあれ私の知っているだけでも上智の語劇には四十年の歴史があります。この四十年の間には戦争などがあって永い間中止せねばなりませんでしたが、戦災で焼きのこされた木の株から新しい芽が出て新木となっていることもあるように、ここ数年の間に上智の語劇は息ぶきて数ヶ国語での語劇祭を行うまでに成長しました。

今年は本学創立五十周年を記念しての語劇祭なので関係者は一層の力を入れています。初期の語劇を回顧してなつかしむと共に、この催しの成功と今後の発展を心から祈ります。



外国語学部長 宇 多 五 郎

人間は誰しも、本能的に演劇的なものを持ち合せているらしい。生活という舞台の上での日々のこまかな仕草やものの言い方に、どこか無意識的な、又はやや意識的な演出めいたものが感じられる。これは青年において特に著しい。そういう所のとりわけ目立つ青年達が、よくできる外国語で戯曲を精読して理解できると、しぜんそれをそのまま肉体的に構成して演出したいという気になる。上智の語劇はここに源を発して、青年学生の総合的芸術活動になる。日本語に訳された戯曲から感激を受け、それを眼鏡に原語にあたり、闇雲にそれを暗記して苦行するのは少しちがう。言葉と動作がちぐはぐにならずに、その国の人間を表現できるのも、すぐれた外人指導者がいるからであろう。上智創立五十周年にあたるというので、英語、ドイツ語、ロシア語、イスパニア語はそれぞれ、日本では初演の近代劇をとらえ、フランス語はモリエールの古典喜劇を演じようとしてはりきっている。どうか舌たらず芸たらずでいい気な学生劇だ等と思わず、青年のもっと奥底から発するしぜんな演劇的要求と、苦にならぬ程達者な外国語でやるお芝居を、ゆっくりお楽しみになって下さい。

委 員 長 柴 野 邦 彦

古い歴史を持つ上智大学の語劇が一つのものにまとまり、語劇祭を催すようになり早くも四回目を迎える事となりました。今年は上智大学創立50周年にもあたり、我々も50周年記念行事の一環として、より大々的に行ないたいと計画しております。

今年は今迄の五つのクラブの他に、新たに英文科のゼミナールである《セルフ》が加わり、英語劇二、仏、独、露、西各一つの六つの劇が上演される事となり、各クラブともより一層の充実を期し、語学的にも演技的にも大躍進をとげるべく努力をいたしております。又、今年は50周年の意味もかね、これからの一層の飛躍の足がかりといたしたく、諸先輩方の御寄稿をおおぎ、我々のまったく知らない時代の上智における語劇のあゆみをおって、50周年記念号といたしました。我々一同、語劇祭が更に立派なものになる様一層の努力をする積りでおります。先輩諸兄をはじめ、皆様の御指導、御協力をお願い申し上げます。

回 想

第1回委員長 金子 有 一

幾多の困難に打ち克ち今日の隆盛を迎えた母校上智大学の創立50周年にあたり、心からお祝い申し上げます。過去3回の語劇祭において語劇祭の委員をやり舞台の裏方をし、翌年には役者となったりで卒業するまで語劇祭にたずさわった一人として誠に感慨深いものがあります。

従来、各部が別々にソフィア祭の一環として参加出演していたものが上智の歴史と共に次第に語学そのものとしても、又、演劇そのものとしても立派に成長してき、語学の上智には欠かすことの出来ないものの1つとなってきた訳です。このような1人1人から誰云うとなく各語劇を統一し語劇祭というソフィア祭とは全く別個のものを開こうという気運が生じたとしても何の不思議もありますまい。当時の学生会会長西条氏（現読売新聞社勤務）の英断により、昭和34年11月第1回上智大学語劇祭が開催されたのであります。各部の足並がそろわなかったことに加え語劇祭委員会の準備不足、語劇祭としての予算が一括計上されていなかったことなどであまり満足すべき成果が得られなかったことは残念ですがスペイン語劇“サルスエラ”5大学英語劇コンクールで如何なく実力を発揮したE・S・S等、個々の出しものについては観客をして魅了せしめるのに充分であったと云って差支えないと思います。

語学を勉強するというこの下手な我々日本人ですが、唯単に英語やドイツ語を書いたり、読んだり、通訳の練習をしたり……それだけで果して外国の人を識ることが出来るでしょうか、風俗や習慣、強いては外国人の持つ感情まで識ることができるでしょうか。勿論劇でも台本を暗記し、舞台上でそれを喋るだけでは何の意味もありません。しかし日常授業で覚えた語学を生かし、舞台上で外国人になりきって芝居を演ずることができるならば……スタッフ、キャスト一体となつての努力が回を重ねる毎にそれを次第次第に可能とならしめたものと思います。

50周年を迎えた上智大学には唯、前進あるのみですが、その陰には教授、先輩諸氏の並々ならぬ労苦があったことを銘記し、明日の歴史の一頁に輝しい飛躍を記すよう共に頑張ろうではありませんか。

又語劇祭にあつては、ソフィア生の実力を如何なく発揮し、その自信と名誉をゆるぎないようにしようではありませんか。

後輩諸君の御健闘と第4回語劇祭の成功を祈り乍ら。



第1回 ドイツェルリンク所演「従順な伯爵夫人グリゼルダ」

第2回副委員長 林 由 夫

第1回委員長金子有一氏の力によって設立された語劇祭並びに、その委員会は第2回に致って時季尚早の声はありましたが、10月の語劇祭を砂防会館で催す事になった訳です。それについて少しばかり述べたいと思います。砂防進出に付ましては、筆者と当時委員長でありました濡木氏（当時スペイン語研究会所属）の2人で独断的ではありましたが、資金のやりくり、又入場者の誘致等の面で、砂防会館へ出るだけの価値があるかどうか相談をし、その結果どうにかやれるのではないかと云う結論に達しましたので、この事を委員会にはかった訳ですが、資金の面で学生会及びソフィア祭実行



第2回 ロソ研所演「検察官」

ではいかなるまでも第1回学外進出として、他に恥かしくない成功をおさめる事が出来ました。ここであらためて委員長に代って、ソフィア会に対してお礼を申し上げる次第であります。しかし、そこまでこぎつけるについては当時の委員会並びに、各クラブ委員の語劇祭盛り上がりの為の奮闘も忘れてはならない物の一つであります。例えばソフィア会総会の席へ出て箱を持ちながら資金を集めたり、又各先輩の所（会社或いは自宅）へ三顧の礼を尽くして、尊い資金を集めたり致しました。これらの事を考えますと、我々当時の委員は今なお後に続く人達への手本として高く誇りを持ち、且つ、心の中に深くあらゆる事が一つ一つ刻まれていくのです。今年度も良き語劇祭となります様委員会及び委員に代ってお祈り致します。

第3回委員長 山 本 良 平

語劇祭は、文化の秋が来る度に大きく成長しているようです。金子先輩によって創設され、濡木先輩によって学外に進出し、一回りも二回りも大きくなりました。

私達、第三回語劇祭委員会は、語劇祭のプログラムを初めて作り、語劇祭発展のささやかな一端の貢献をしたと思います。独立したプログラムの作成は、初めてですので、ずい分と苦労しました。例えば、広告のことで、私自身、麻雀屋、ビリヤードの広告は取りたくなかったのですが、不本意ながら、委員会の要望により取りに行かざるを得ませんでした。絶対に取れるものと確信しましたのに先方は断わってきたのもあり、随分、個人的に悩んだものです。

その他、いわゆる“飛び込み”という広告取りもしました。結局、無駄でしたが、私自身は、色々勉強させられました。

私達は、殆んど素人ですので持ち前のチーム・ワークを駆使し数多くの困難を乗り越え、語劇祭を開催した訳です。チーム・ワークと言えば本当に私達は良くまとまっていたと思います。私達語劇祭委員の感激は、反省会が終り委員達だけが残った時に、大いに襲って来たようです。女の人の中には涙を流した人もいました。皆が非力な私を助けて、一致協力の態度でカバーしてくれたものです。あるひとりの委員は言いました「僕は、今のクラブに入っている他に、語劇祭クラブにも入っている。」と。皆、各クラブの利害を離れて、語劇祭のために尽くしてくれましたことは今、なお、私は感謝しています。

今後、語劇祭が増々発展して、大学祭同様の盛り上がりが全学に充満することを期待します。



第2回 フラ研所演「イタリアの麦わら帽子」

楽しい思い出



もう あかん!

青山高志 (昭和7年卒)

私の入学した年、即ち昭和2年の11月初旬の夜、「ウィリアム・テル」「クリスマスCarol」の二本の出し物をホフマン学長以下外人教授全員の前で堂々と演じ、参会された多数の外国高官並びに其の家族の方々より万雷の如き拍手を得た当時の光景は今尚はっきりと記憶に新しいものです。当時テルを演じた青年は現近畿大学経済学部長の影山氏で築地小劇場仕込みの好演技はドイツの神父様方から本国の舞台以上との絶賛を得たものです。何れにせよ出演者も、舞台裏の者も、又観客たる一般学生も文字通り全学を挙げての年一回の楽し行い事で、三百人位しか入れない講堂は一杯で、廊下で立見する学生が出る程盛会なものでした。

最近二年程語劇祭を拝見して劇の内容の充実しているのには驚嘆しているのですが、又それに反比例して観客の余りにも少いのに驚いたり、悲しんだりしています。上智ならではの此の種の催し物なものですから、各国大、公使並びに其の御家族を御招きして見て頂き真の理解者を得て昔の様に上智の語劇祭の切符は仲々手に入らないと言う様な日の来る事を、否必ず近き将来来る事を確信しております。
(ソフィア会顧問)

仙名紀 (昭和35年卒)

Sophia ESS が毎年1回上演している英語劇のレパートリーをふり返ってみると、こんな具合である。1955年はボクが入学する前年なので、はっきり覚えていないが、Othello が、Macbeth が、なんでも Shakespearian play だった。56年が Oedipus, the King, 57年; Teahouse of August Moon (八月十五夜の茶屋), 58年; Arceucic and Old Lace (毒薬と老嬢), 59年; You Can't Take it With You, 60年; The Valiant (勇者), 61年; Every, 62年ふたたびイディプス……。

ボクが2年生のときから3年間は続けて喜劇をやった。それが好きでもあった。観客の反応があると、舞台上で演じている当人たちはうれしい。しかし下手なヤツのやる喜劇のできそこないは、ニガ笑いが出こそすれ、あまり心から笑えるものにはならない。むしろハナつまみものだ。そのボクも、できそこないの喜劇をやったのだから、見ている連中は気の毒だった。

「毒薬と老嬢」を演ったころ、上智の女生徒はまだ数えるばかり。バアさんなんかだれもなり手が無い。仕方なく——というより得意になって、主役のアビイという、“人殺しを慈善と考えている”ババア役を引受けた。結果は……神父さんからハナつまみになった(ということだ)。そのころの写真を見ると、なるほどよくこそネコナデ声なんか出して、みんなの前でシバイしたものだと思って、ハズカシイ。
(朝日ジャーナル編集室)

中山秀隆 (昭和38年卒)

社会に出ると夏休みがなくて残念だなあと、学生時代を懐しがっていたら、先日、電話があった。何かかと思って受話機をとってみたら、先輩の立場からスペイン語劇について原稿を書いてくれという。果して期待通りのものが出来るかととまどったが、是非ということなので引受けてしまった。

思えば、我々も、三年生の時には、サルスエラに情熱をもやし、いろいろの苦しみはあったが、全員の努力と協力で、それをのりこえ、どうにか無事に終了出来たのを覚えている。今になると、すべて貴重な体験として、なつかしく思い出されてくるが、今度は、後輩諸君が、一生懸命努力しているのだと思うと、私の出来るお手伝いなら何でも喜んでほしいと思うし、彼ら自身の良い思い出となる為にも、立派なものを上演してほしいと思う。

聞くところによると、今年は、今まで上演してきたサルスエラ形式を改め、いわゆるドラマに転向したという。今年の

劇についてはその題名すら、先日の鈴木君の電話で初めて知ったようなわけで、ほとんど知らないが、一般に、学生が上演するサルスェラとドラマの場合、その進行上、あるいは、運営上、一寸した差があると思うので、それを感じたまま述べて、今年の劇の成功の一助にしてもらいたいと思う。

サルスェラは、周知のように、歌（ソロ、二重唱、合唱などを含めて）、踊り、会話の三つが一体となり、それに演奏が加わって構成され、その内容は、概して、コミックなものが多い。そして、その構成人員上、登場人物の数が、自然多くなる。我々の場合でも、装置などの裏方さん達を含めて、延60人近くの人達が活躍した。練習は、歌、セリフ、踊り、演奏などと分けられ、個別に行われる場合が多く、よほど時間的余裕がない限り、全体と一緒に練習する機会は少なくなりがちである。が一方、ジェスチャーが比較的大きくコミックなので、スペイン語が不得意な人々でも見ていて楽しくなるようなムードをもっているものが多いと思う。この点で、ある程度、語劇祭への観客動員数が維持される。このように、全体をまとめるのには、骨を折るが、客席の人々には、楽しんでもらえるという利点がある。しかし、又別な見方からすれば、内容を重視して、大学生のスペイン語劇なのだから、ドタバタ調はやめて、例えば、盲目の人達を登場させ、そこに、スペイン精神古来の現実主義と理想主義の葛藤を表現したアントニオバリエッホの“カルバリオの道遠く”（邦題）のように、もっと内容の充実した劇を上演すべきであるという意見も生れてくる。今年のドラマは、こんなところに原因して、上演決定がなされたのかもしれないと推測している。

ドラマの場合、比較的小人数で構成されうる。そして全員で練習する機会も多いし、あまり大規模にならないので、全体の統率という面からも、より充実した、立派な上演がなされるものと期待している。

後輩諸氏が、自から進んで、新しい分野を開拓し、推進していこうとする熱意は立派だし、貴重であると思う。今後自主的に、かつ、大局的見地になって、活躍してもらいたいと同時に、今年上演される形式のドラマは、語劇祭参加劇ということでは、初めての試みなので、色々骨が折れると思うが、是非成功裡に終ることを祈ります。（日本光学）

林 朗 也（フランス語科4年）

早いもので語劇祭も今年で第四回目を迎えたわけですが、私が未だ一年坊主の頃は、これら五外国語劇の独立講演は初めての試みということで意見百出、批判ゴゴと、その前途は大いに危ぶまれソフィア祭実行委員会から独立した体勢をとるには時期尚早などと云われ一時はこの企画も暗礁に乗り上げそうになったのですが、その頃の先輩諸氏は今とは違って開拓者精神の塊みたいな人ばかりで見事今日の栄光につながる突破口を開いて下さったわけです。

フランス文化研究会も第一回の「町人貴族」から今回の「気で病む男」迄、間に「イタリアの麦わら帽子」（ラビッシュ作）「George Dandin」を含め四つの劇を上演して参りましたが、毎回各方面から多大な喝采をいただいております。「喜劇のフランス文化研究会」などと云われています通り、私達の首尾一貫した作品撰択が既に御気付きになれたかと思えます。このように当会は毎年秋には必ずつと云ってよい位、喜劇上演に力を入れて参りました。特にその内でもフランスの生んだ大喜劇作家モリエールの作品（上記のラビッシュ以外の三つはすべて彼の作）を中心に、ただ御客様を笑わせることのみならず、フランス十七世紀のエスプリ、風俗習慣とりわけ貴族とその召使い、百姓とその妻といった取り合せによって当時の貧乏人と金持との身分違いの結婚やその破局、はては田舎貴族の腐敗した精神の痛烈な批判 etc と、観客の皆様には単に喜劇の観劇のみならず現代人としての日常の生活にも度々起りうる笑いの題材をモリエール独特の巧みな手法によって伝えており、いつのまにか彼の「笑いの哲学」の世界へと引きづり込まれてしまうのです。実際、彼の作品はどれをとって見ても「難しい！」の一語につき、演出をやらされる毎に実際仕事の始まる前からとまどってしまった事もありました。「素人の劇」「学生の劇」として本職の人達には出しえない「意欲」をもって作品に取り組み、と云う宇多教授の言葉はいつも私の心の指針でありました。事実、私達語劇仲間直接仕事にたずさわった人なら誰でも体験したことだと思います。エピソードやそれに類したことは想い出せばきりがありません。一幕ではヒゲの紳士が二幕では召使い、揚句の果てには通行人という具合に、一人二役や三役はざらで「イタリアの麦わら帽子」では、私も演出と主役を兼ねてテンテコ舞いをしました。裏方の人達は職人顔まけの器用揃いで中世の衣裳などは、手製ではあるが貸し衣裳よりも出来の良い傑作もありました。とにかく「営利」を目的としない、ピッタリ息の合った学生劇のすばらしさがいつも感じられるのです。

やがてこの語劇祭も一層充実して行くと思いますが劇芸術に対する関心及び理解が、それを実際に行う学生の内のみに留まらず、広く一般の方々にも理解され、親しまれるように努力することも、語劇人の今後の課題の一つであると思えます。

Le Malade Imaginaire

一 氣 で 病 む 男 一

(コメディー3幕)

作 モリエール

10月26日 P.M. 1時より

フランス文化研究科主催



コメディー・フランセーズ所演

ス タ ッ フ

舞台監督	田島将男(B34)
演出	高嶋彰(D〃)
大道具	蓮沼忠(B35)
小道具	八坂順子(B11)
効果	片山愛子(A34)
照明	滝沢裕(B47)
衣裳	鈴木三美子(B34)

キ ャ ス ト

Argan アルガン	大野厚(D34)
Béline ベリーヌ	小島総子(B〃)
Angélique アンジェリック	福田正子(C〃)
Louison ルイゾン	金田百合子(B〃)
Béralde ベラルド	長谷泰(B〃)
Cléante クレアント	三浦隆夫(C〃)
Diafoirus ディアフォリュス	南館英孝(B〃)
Thomas トーマ	三橋利光(B〃)
Pargon ピュルゴン	五井征治(B〃)
薬剤師	横山三四郎(C〃)
公証人	池田尚広(B〃)
Toinette トワネット	増田紘子(C〃)

第一幕：舞台はパリのアルガン氏の邸宅である。ブルジョアのアルガン氏は、何ひとつ不自由のない身分でありながら、自分を大変不幸な人間と思いこんでいる。それというのは、事實は健康そのものなのだが、氏自身は自分を大変な重病人であると思込んでいることだ。「気で病む男」で「医者の病い」にかかっている。そんなアルガン氏をみて、分別のある女中トワネットは、はがゆくてならない。折あるごとにアルガン氏を攻撃する。それというのも、氏の後妻であるベリーヌは、うわべではアルガン氏をいたわり、子供達に親身さをふりまく風を装って、その実は、ひそかに公証人を手なづけ、氏の遺産をひとりじめにしようと企んでいるし、氏のお気に入りの薬剤師フルランも、かかりつけの医者ピュルゴン先生も、アルガン氏の身体をいい慰みものになっていること、また同じく医者のデュアフォリュス氏も息子のトーマをアルガン氏の娘アンジェリックと結婚させて遺産の分け前にあずかろうとしていることなど、トワネットはことごとく承知しているからだ。その上、アンジェリックにはクレアントというれっきとした恋人があるが、娘の結婚相手はトーマ・デュアフォリュスときめているアルガン氏は、頑として2人の結婚を許さない。そこでトワネットは一計を案ずることになる。

第二幕：アンジェリックの恋人クレアントは、彼女の音楽の教師と偽わってアルガン氏宅にのりこんで来る。頂度そこへ、医者のデュアフォリュス氏も少々頭のたりのない息子のトーマをともなって訪れて来る。そこにいあわせたクレアントは、トーマとアンジェリックとの結婚披露宴の準備にと歌うようアルガン氏に命ぜられる。クレアントは巧みに自分の

気持を歌に託してアンジェリックと合唱するが、歌の内容が気に障ったアルガン氏に追い返されてしまう。アンジェリックはトーマとの結婚には気が進まないこと、しかし父親のアルガン氏に対する愛情には変わりがないことを力説する。しかし、自分のいいつけに従わない娘に腹を立てたアルガン氏はアンジェリックに謹慎を命ずる。デュアフォアリュス氏とトーマは、大げさにアルガン氏の容態を診察して意気揚々と引き上げる。さらにアルガン氏はベリーヌに、アンジェリックがクレアントと部屋で密会していると告げ口され、アンジェリックの妹ルイゾン呼びつけ問いただす。小さなルイゾンは、最初は姉のいいつけどうり知らない振りをするが父親にせっかんされて、なにもかも白状してしまう。音楽の教師こそ、アンジェリックの恋人クレアントであることがわかったアルガン氏の怒りは爆発し、そのために自分の容態がますます悪化したものと思込む。そこへ、アルガン氏の実弟ベラルドが登場する。彼は分別も教養もある紳士だが、トワネット同様、兄の日頃のばかげた行動を見かねている。彼はある用件をもってやって来たのだが、その前にまず不気嫌な兄の気持をやわらげようと、町の大道芸人達を部屋に案内する。

幕間劇：「気で病む男」アルガン氏の弟ベラルドは、兄に気晴らしをさせるためにモール人の風装をしたエジプト人の女達を部屋に招き入れる。彼女たちは、青春の尊さ、愛の喜びを、踊りながらアルガン氏に歌って聞かせる。

第三幕：ベラルドは兄の日頃のばかげた行動を注意し、またアンジェリックとクレアントの結婚を成立させようと思ってやってきたのだ。トワネットは、アルガン氏を目を醒まさせるために一芝居を打とうとしていることをベラルドにうちあけ、その協力を求める。まずベラルドは兄に向って、病いなどは薬や医者だけでなおせるものではないこと、アンジェリックが本当の幸福になれる方法など、順々に説くが、アルガン氏は自分の考えをなかなか変えようとはしない。そこへ薬剤師のフルーランが手に大きな灌腸器持って現われる。ベラルドがすかさず彼を押搦すると、怒ったフルーランは、アルガン氏がとめるのもきかず、さっさと帰ってしまう。続いて、ピュルゴン先生が現われ、いましがたの無礼は何事かといきりたちもうこれまでと、変な病気をいろいろと持ち出しアルガン氏を散々おどしつけて、これもまた帰ってしまう。医者から見離されたことと失意落胆するアルガン氏のところへ、トワネットが氏のために新しい医者をみつけて連れて来たことと告げる。喜こんだアルガン氏は急いで案内するように命ずる。トワネットは自分で診妙な医者に変装して現われる。そこで彼女は散々に医学を愚弄し、アルガン氏を仰天させる。言葉巧みに、大げさな作り話を交えて話しまくるトワネット扮するこの痛快な医者によって、さすがのアルガン氏も次第に、いままでの自分の愚かさを気づき始める。そこでトワネットは次の計略に移る。こんどは、妻とアンジェリックの、どちらの愛情が本物であるかをアルガン氏に解らせるための計略である。まずベリーヌを呼んで、たった今アルガン氏が死んだと告げる。自分の夫が本当に死んだと思ったベリーヌは死んだ振りをしてアルガン氏の悪口を散々述べた。ここに妻の本性を知ったアルガン氏は妻にすぐ家を出て行けと命ずる。次に、アンジェリックが呼ばれ、さきほどのベリーヌの時と同様、トワネットは彼女にアルガン氏の死を告げる。アンジェリックは嘆き悲しみ、さきほどまでの父親に対する不実を恥じ、自分とクレアントとの結婚をあきらめると、死んだと思った父親に向ってわびる。そこへクレアントも表われ同様に無礼をわび、アルガン氏の死を悼む。娘の優しい心情を知ったアルガン氏は、びっくりするアンジェリックにむかって、クレアントとの結婚を、彼が医者になるという条件つきで承諾する。しかし、ベラルドは、アルガン氏が自分自身医者になった方が万事便利だろうと進言する。おじけづくアルガン氏を、皆でおだてあげ、ここにアルガン氏が医者となるための式が始まる。



人間の叡知

近代石油産業は、人間精神の発明的才能や創造的能力をあます所なく証明しています。

人間の叡知が石油という資源の開発にむけられた時、僅か一世紀の間に人類の生活様式は完全に一変しました。

シェル石油は一層すぐれた技術や、より良質で、より多様な精神を生みだす為、たゆみない努力を続けています。

シェル石油株式会社



幕間劇：セリフと舞躍と歌により、アルガン氏を医者にする滑稽なる儀式が始まる。実はここに登場する博士や医者たちはすべてベラルドが連れて来た喜劇役者の一座で、彼らが話すラテン語は、モリエール独特のいとも滑稽なるフランス語とラテン語の混淆した変格な言葉である。

〔解説〕

この「気で病む男」（原題は *Le Malade Imaginaire*）は、1673年にモリエールがルイ十四世の凱施を祝して宮廷で上演するために書きおろしたものである。（しかし、宮廷での上演は実現しなかった）。そして、その年の2月17日、モリエールはこの劇の主演アルガンを演じていた最中に舞台でたおれ、まもなく息をひきとった。従って、この作品は彼の遺作となった。この劇が書かれたいきさつとして、以上のものとは別に、モリエール研究家達は、当時の医者達に対する作者の憤懣と、その頃悪化していた彼の劇団の経済状態とをあげている。彼の生命を奪ったものは、以前から彼を苦しめていた胸の病いであったが、これに対する医者への処置に少からず不満を抱いていた彼は、持前の反抗精神を燃え立たせ、これら偽善的医学者達を彼の喜劇の題材としたことは容易に理解できる。また劇団の経営困難に直面して、モリエールが一座の長として、作者として、さらに役者として、一座の全責任を負っていたことから、彼にとってこれまた深刻な問題であったに違いない。従って、この作品はそれまでの彼の作品とは少々趣きを変えて、純粋に彼の劇団の人達のために書かれたという色彩が濃い。そして、後に残される座員を思いはかって、彼は死ぬ直前まで舞台上に登ることを強く望んでいたということである。

以上のようなこの劇をめぐる当時のいきさつは、それはそれとして興味深いものである。しかし、現代においてこの劇を上演する場合には、この作品が彼の遺作であり、彼の喜劇の総決算とみなされていることに、さらに意味深いものが感じられる。

この劇には、特異な性格の持主が登場し、最後に分別のある人間にやりこめられるといった彼のドラマツルギーの常套手段が使われている。アルガンという異常にゆがんだ性格の主人公（しかし、いつの時代にも存在する普遍的な型の人間）に対して、ベラルド、トワネットといった正常な性格の持主（モリエールの代弁者）を対置させ、前者が後者によって矯正される。両者の対立と、そこに生じるギャップを埋めてゆく過程が笑劇的要素と結びついてさまざまな滑稽さを生み出す。そしてそこに常に流れているものは、常識を尊重し、自然の掟にさからわないというモリエールのモラルである。

フランス古典主義時代に、その理論を集大成した批評家ボワローは、ルイ大王に問われるままに「当代随一の詩人はモリエールにございます」と即答したといわれる。フランス古典主義時代といえば、文学史上まれにみる多くの著名な作家を輩出した。その中から、従来低いものと考えられていた喜劇の作家モリエールが、その頃最も権威のあった批評家ボワローの讃辞を得たということは、その頃の彼の文壇上の位置、もしくはフランス文学史上の位置を判断するためには、好適な材料である。当時の三大劇作家と称されるのは、コルネイユ、ラシーヌ、そしてモリエールであるが、モリエールが他の2人と区別される点は、喜劇作家と悲劇作家といった違いだけでなく、彼が貴族や僧侶といった上の階級の人間に対しても遠慮せずに批判攻撃したことで、このことによって、彼はフランス最大の民衆作家とも呼ばれている。しかし、彼の身分の上下を問わない大胆な人物批判、社会批判は、彼の自然児としての両目をやくじょとさせるものであるが、それは必ずしも当時の社会から好意的には受けとられなかった。しかも、宮廷作家と民衆作家という一見相対する立場に置かれた彼は、一作ごとに社会問題を引き起し、そのたびに苦澁を味わわねばならなかった。最も物議をかましたのは『タルチーフ』で、その大胆な宗教批判は、多くの宗教家の反感を買い、彼らの王への働きかけもあって、この劇が完全な姿で上演されるのには、数年を待たねばならなかった。またこの『気で病む男』にしてもモリエールが従来提携してきた作曲家リュリイ以外の作曲家に、エグロークや幕合劇の作曲を依頼したことから、リュリイの反感を買い彼の王への策動もあって、遂に宮廷での上演は見あわされてしまった。

このようにモリエールの演劇人としての生涯は苦闘の連続であったが、このことは彼の作品を、内容的により深いものとし、そこにはモリエールの人間性が具現されている。アルセスト（人間嫌い）、タルチーフ（好色な信心家）、マグドレン（才女気取り）、アルバゴン（守銭奴）、ジュルダン（成上り者）、マスカリーユヤスカパン（とんち者）、ドンジュアン（放蕩者）、そしてアルガン（気で病む男）など、今なおフランス国民に親しまれている数多くの人物をつくりだし、喜劇を立派な劇芸術として確立したモリエールが、現代にいたるまでフランス最大の劇作家の一人として認められているという事実は、先のボワローのモリエール評とあわせ考えて、当然といえるかもしれない。

ごきげんよう

(喜劇 4幕 5場)

作 B・ローソフ

10月25日 P.M. 5時30分より

ロシヤ・ソヴィエト研究会, ロシア語科共催

アンドレイ——彼は現代の代表的人物ではない。彼は重要な登場人物であるにすぎない。現代の英雄の性格は、その言葉の単純な意味に於ても、まだ我々の戯曲で創造されていない。これは我が国の現代戯曲に於ける大きな欠陥である。しかし私は信じている。我々の時代の代表的人物の性格が間もなく舞台上で顯示されることを……。

(B・ローソフ 1955年11月)

スタッフ

製作	高谷 稔(3年)
演出	清家 茂(3年)
舞台監督	柴崎 一枝(3年)
装置	曾根岡 昭夫(2年)
小道具	鷲塚 喜美子(3年)
衣裳	鳴海 美保子(3年)
照明	鈴木 孝雄(2年)

キャスト

ピョートル・イヴァーノヴィチ・アヴェーリン	生物学博士 50才……………並木 俊夫(2年)
アナスタージア・エフレモブナ・アヴェーリナ	その妻 48才……………小川 菊代(2年)
アルカージイ	長男 俳優 28才……………加藤 一宣(3年)
アンドレイ	次男 大学受験生 17才……………三木 惣介(2年)
アレクセイ	2人のいとこ 18才……………今井 四平(2年)
ガーリヤ	アンドレイの友人……………吉住 史子(3年)
ヴァジーム	アンドレイの友人……………中村 孝(2年)
カーチャ	アレクセイの友人……………宮崎 祥子(2年)
アフナーシイ	アレクセイの友人……………点崎 栄一郎(3年)
マーシャ	写真家……………島田 節子(2年)



さて今日は本番!!

あらすじ

第一幕 (第一場)

アヴェーリン家の客間、アルカージイとアンドレイの兄弟はお互に理解し合っていない。アルカージイの恋人写真家のマーシャが訪ねてくる。アンドレイはマーシャに現在の家庭にも学校にも友達にも満足できないことを投げつけるように語る。その底には真実を求める青年の憤りがあるのである。その後客間に出てきたアルカージイは演劇のいきなりからマーシャに「愛していない」と云いきってしまう。マーシャは色々と彼を慰め励まそうとするが、後一度劇場で試演してみても駄目だったら俳優をやめようと考えているアルカージイを力づけることは出来ずに失望して去る。両親とも自分の念頭にあることに捉われて有効な助言ができない。その時父親は戦争中に一家が世話になったイルクーツクの妹から“息子

Der Blaue Stroh-hut

— 青い麦藁帽子 —

(喜劇 5幕)

作 F. ミヒヤエル

10月26日 6時半より



ドイツエルリンク主催

Staf

演出・指導	Prof. E. ルツェ
総監督	岡山勝之(C9)
助監督	西尾謹二(B33)
舞台装置	鈴丸英世(C33)
“	山守雄(B33)
衣裳	中村芙美子(B3)
照明	松村淳(C9)
小道具	亀山剛生(C33)
プロンプター	富永順一(D33)
“	高橋範子(C33)
“	伊藤忠臣(B33)

Personen 登場人物

Caesar (ケーザー)	森本忠(D33)
Claudia (クラウディアケーザーの妻)	小暮美智子(C9)
Carlo (カルロ)	横山隆三(D33)
Ulrico Grassini (グラッシーニ、帽子屋の主人)	太田晃弘(C33)
Beatrice (ベアトリース、帽子屋の女主人)	玉置久子(D33)
Lola (ローラ、帽子屋の売り娘)	鈴木悦子(B33)
Mara (マーラ、 “)	石井みゑ子(B3)
Mario (マリオ、喫茶店のボーイ)	塚本勝利(D33)
Eine Dame (女の客)	山口千波(B3)

物語：これは地中海に面したある町を舞台とした喜劇である。この物語で主役を演じるのは人間ではなく、一つの美しい青い麦藁帽子である。

(一幕)：倦怠期に入った一組の夫婦、ケーザーとクラウディアは今日も互に軽く言い争っていたが、ケーザーはいつものように喫茶店へ出かけてしまう。彼が出かけたあと帽子屋の売り娘ローラがクラウディアの注文していた帽子を小脇にかかえて入って来る。それは青い麦藁帽子であった。おしゃまなローラは、帽子のことや自分の主人についておしゃべりをし始めたが、そのうちここへくる途中その青い麦わら帽子をかぶって来たことが解ってしまう。彼女が帰ってしまった後、クラウディアはその新しい帽子をかぶって夫ケーザーの友人、カルロのところへ出かける。

(二幕)：カルロに気があるクラウディアは自分の買った帽子をほめてもらおうと思って、いろいろ気を引かそうと試みる。コチコチの哲学者であるカルロには一向通じない。クラウディアはじれてローラの口調をまねたり、帽子屋の主人グラッシーニの口調をまねたりして、やっと帽子に気付かせる。しかし、カルロはその帽子があまり気に入ったようすもないので、彼女は怒って帰ってしまう。気まずさをまぎらわすため彼はケーザーのところへ電話をかける。丁度その時、ケ

イザーが彼を尋ねてくる。ケーザーは、喫茶店へ行く途中、青い麦藁帽子をかぶった少女（ローラ）を見て、その帽子の不思議な魅力に惚れこんだことを話す。カルロは、その女はクラウドディアではないか、と主張するが、ケーザーはそれを否定し、その帽子を是非もう一度見たいと思う。そこでカルロはケーザーに一度帽子屋グラッシーニのところに行くようにすすめる。ケーザーは彼のところへ出かけて行く。

(三幕)：帽子屋の主人グラッシーニが、とどける途中客の帽子をかぶったことでローラを叱っている。そこへケーザーは姿を現わす。ケーザーは、青い麦藁帽子を買っていった夫人の名を尋ねるが、グラッシーニは職業上の秘密だと言って教えない。グラッシーニが他の客の応待をしている間、女主人ベアトリスがケーザーのために買い主の名前をさがしてみることがわからない。名前を聞き出すことが出来なかったため、失望してケーザーは行ってしまふ。彼が帰ったすぐ後クラウドディアは、カルロに気に入られなかったため帽子を返しに来た。しかし、帽子屋の主人グラッシーニは引きとることを拒み奥へ引き込む。彼女に女主人ベアトリスはこの青い麦藁帽子の主を捜している男が来たことを告げる。しばらくして奥から出てきたグラッシーニは帽子を引きとることを承知したが、今度はクラウドディアの方が返えす気をなくしてしまった。

(四幕)：ケーザーは、喫茶店のテラスから双眼鏡で海岸の方をのぞいて、青い帽子が沢山あるのに驚いている。そこへカルロが来る。彼等が世間話に興じている時に、グラッシーニの店を追われた売り娘ローラがやってくる泣き始める。彼等が彼女をしきりになぐさめる。彼女はカルロが気に入ってしまう。そこでケーザーは二人を残して出て行ってしまふ。ローラから事情を聞いたカルロは、彼女と一語にグラッシーニの店に行って退職金を取ってやることを約束する。彼等が喫茶店を出た後、青い麦藁帽子をかぶったクラウドディアが入ってきてボーイのマリオにケーキを注文する。彼女がマリオと話している時、彼女がかぶっている帽子に気づきその帽子をほめるが、マリオが行った後、彼女は訳もなく悲しくなって涙を流す。

(五幕)：舞台は第一幕と同じ部屋の中。ケーザーが青い麦藁帽子についてクラウドディアと話している時、カルロとローラが尋ねてくる。四人で話しているうちに今までのいきさつが次第に解けてくる。クラウドディアが青い麦藁帽子をかぶっても気付かなかったケーザーは、ローラがそれをかぶった時、初めてそれが自分の捜し求めていた帽子であることに気付く。クラウドディアは、一瞬気分を害すが、丁度その時現われたグラッシーニがすべてを解決する。即ち、彼は先日の詫びのしるしにクラウドディアに、新しい黒い帽子を贈ったのであるが、それが彼女には非常によく似合ったので、ケーザーは新めて彼女を見直したのである。

みどころ

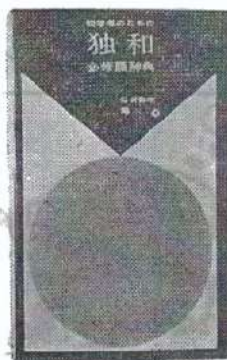
作者はこの作品の上演にあたって、演出者がこの作品を写実的にではなく、ファンタジックで、遊戯的な傾向で演じることを願っている。何故なら、婦人の帽子というものは、その独自な色と型に於てそういう傾向をおびているからであ

初學者のための 独和必修語辞典

●桜井和市編

全書判・320頁 定価 300円 ¥40

- ◆ドイツ語学習者にとっての必修用語
8000余語を基本として編集ノ
- ◆熟語・成句・用例等も豊富に収録ノ



入門ドイツ会話

藤田五郎著 定価 230円 ¥40

続・入門ドイツ会話

藤田五郎著 定価 300円 ¥40

東京都文京区春木町 3-23
京都市中京区寺町通御池南

南江堂

語学の学習はレコードで!

美しいドイツ語

LP 33 $\frac{1}{8}$ ・7吋盤 3枚1組箱入
定価 2,000円 ¥120

レコードシリーズ Nr.2

Schüler-Szene

Aus dem 1. Teil des „Fanst“
EP 45回転盤 定価 750円 ¥30

独和对訳シナリオシリーズ 第35輯

アイガー氷壁決死の救援

B 5判 定価 200円 ¥30

る。そして、そもそもこの物語は、地中海とオリエント海のおとぎの国々を通して帽子を追っかける、たくさんの情熱的で、コミックな場面をもった、小さな、ファンタジックな物語として計画されたものである。

この物語の中に登場する青い麦わら帽子も、独自の色と型をそなえている。ローラが青い麦わら帽子をクラウディアのところにとどけに行った時、ローラは、「婦人の帽子には普通一般に婦人がかぶる帽子と、恋人を持つ婦人がかぶる恋人用の帽子があり、この青い麦わら帽子は恋人用のものだ。」と力説するが、クラウディアはその帽子をかぶって気があるカルロのところへ出かける。しかしカルロは少しも帽子に気づかない。彼女の遠まわしな暗示でやっと気づく次第である。クラウディアがかぶってもその帽子の良さは発揮できなかったのである。一方ローラが帽子をとどける途中、箱から出してかぶって行くのを見たケーザーは、その帽子の魅惑的な不思議な、魅力に引き入れられてその帽子を捜しに行くのである。つまり、ローラがかぶった時その帽子は独自性を十分に発揮したのである。このことは五幕で一層はっきりする。即ち、ケーザーはクラウディアが目の前で青い麦わら帽子をかぶっているのであるが、それが彼の捜し求めている帽子であることに気づかない。しかし、その場でローラがかぶったのをみて初めて気づく。クラウディアが帽子を返しに行つてそれをことわった帽子屋の主人グラッシーニは、そのことで可憤を感じ、黒い婦人帽子をもってクラウディアのところに謝罪に来る。その場で彼女は黒い帽子をかぶると、その帽子は独自の魅力を発揮して、ケーザーをはじめ皆その美しさに驚くのである。

この劇は、喜劇なるが故に二つの喜劇的要素をもっている。一つは、この物語の登場人物の行き違い、すれ違いである。あらすじを読めばお解りでしょうが、その一見複雑な経過が青い麦わら帽子を中心に実に喜劇的に描かれている。それは偶然というより、この帽子が彼等をそのように動かしていると言っても良い程である。いま一つは、彼等の会話のやり取りである。これは多くの喜劇にみられるものであるが、当事者にとっては何でもない普通の会話である。しかし、一歩外に出て観客側からみると実にコミックで愉快で心おきなく笑える喜劇である。

出演するにあたって 森本 忠

今年も語劇祭がやってきました。百名以上の部員を有するドイツ・リンクが、日常のクラブ活動の総力を結集するのがこの語劇祭であります。運動部のような対抗試合を持たない我々にとって、上智の内外にクラブ活動の真価を示す唯一の機会でもあります。

本年度は昨年の深刻な宗教劇（ホフマンスタール作、イエーダーマン）とは一転して喜劇を上演することになり、そこには神も悪魔も登場しません。単に世相を漫然と描いたり、男女の喜怒哀楽を扱うのではなく、何か問題を提出して、皆様に解答といわずとも、何物かを示唆し、暗示できればこの劇は妙味あるものとなりましょう。

語劇雑感 岡山 勝之

ドイツ・リンク（ドイツ文化研究会）では、すでに過去数回に渡って語劇を手がけてまいりました。3、4年前までは、この語劇をドイツ文化研究の一端として、実際に劇を演じながら、その語学的、文学的意義を見出そうと行ってきたわけです。しかし、語劇が今日のように、語劇祭を通じ外に拡がるにつれて、語劇の芸術性が評価され、次第に高められて、その価値が認められつつあります。このことは、我々として非常に嬉しいことではありますが、反面、より良い語劇を演出するに、我々の力は限界にきていることを認めなければなりません。動作、言葉のドイツ的ニュアンスを劇の中で精確に表現することは、我々、外国人の力では残念ながら不可能に近いことです。この状態に至って、昨年、初めてドイツ人に演出していただきましたところ、今までに増して、一層充実したものが認められ、好評を得ました。そういう訳で今年もルツェ先生にお願いして、比較的難しいと言われる喜劇を手がけることになりました。劇を上演するまでの過程に於て最もやっかいなのは、役者と裏方の折合です。上演が近づくにつれて役者も裏方も殺気立ち、些細なことでもいざこざが起ったりして、それを緩和するのにいろいろ苦勞しましたが、皆事態をよく考え、各々の立場をよく理解し、従事してくれましたので、安心して練習を続けることができるようになりました。我々は語劇を通じ、実際に劇に出演し、舞台裏の様々な仕事にタッチしながら、クラブ員相互の和を計り、語劇の中に語学的な意義、文学的価値を見出しながら、語劇そのものの芸術性を高めようとしているのです。



オットー...?

Los Interese Creados

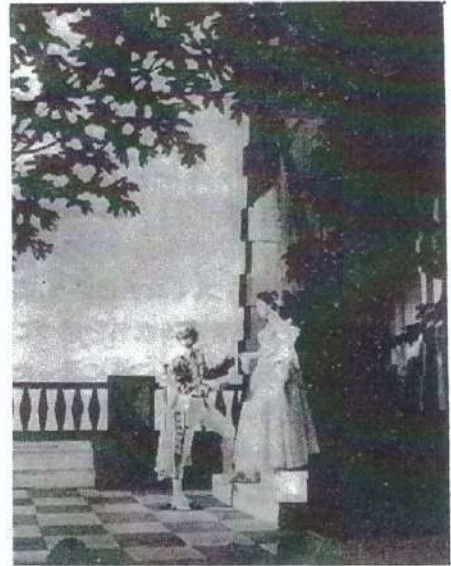
一作り上げた利害

(2幕 ノーベル賞受賞作品)

作 J. ベナベンテ

10月26日 P.M. 4時より

スペイン語文化研究会 共催
外国学部イスパニア語科



スタッフ

製作	鈴木忠彦(C36)
同補佐	大里隆(C35)
演出	小泉克弥(〃)
美術兼舞台監督	橘川慶二(C36)
	斎藤康一(〃)
照明	中島輝雄(C36)
	小野浩(B36)
	小沢良秋(A36)
大道具	神原勝行(C36)
	大杉寿雄(B35)
	石上雅紀(A35)
	淡谷成(〃)
	太田忠(A35)
	三屋英俊(A36)
	新谷慎次郎(〃)
小道具	佐藤洋子(B35)
	漆田稔(B36)
	宮津宏子(A35)
	宇多寛而(A36)
	広安徹(B35)
衣裳	斎賀佳寿美(C35)
	大崎通代(A35)
	尹英子(〃)
効果	野崎和孝(C36)
監修	Prof. José M. Sancho
	神吉敬三

キャスト

(Reparto)	富田悠紀子(B35)
Doña Sirena	立川悦子(〃)
Silvia	田原ゆりえ(〃)
Señora de Polichinela	海老原良子(〃)
Colombina	向井伊都子(A35)
Laura	腰山堯子(A36)
Risera	鶴田嘉彦(C35)
Leandro	佐藤隆一郎(〃)
Crispin	堀寿太郎(C36)
El Docsor	中島孝夫(B36)
Polichinela	伊藤尚雄(C36)
Arlequin	矢田紘雄(B35)
El Capitàn	中西働美(C36)
El Hostelero	小泉克弥(C35)
Pantalón	森滋生(B35)
El Secretario	鄭東耀(A35)
Mozo 1.	郡司常海(〃)
2.	伊藤勇(A36)
Alguacilillo 1.	
2.	

「物語」

第一幕第一場

とある町に2人の男がやって来る。1人は22, 3の美青年であるが、どことなく気の弱そうな感じである。もう1人はと言うと、これは体つきもがっしりとした、40がらみの男で、いかにも狡猾そうな感じのする男である。名前はクリスピンと言う。この2人は、いかなれば詐欺師のようなもので、方々の町でいいかげんな話をでっち上げ、うまい汗を吸いあ

げくの果に化の皮が剥れて、這々のていで逃出して来たという前歴の持主達である。

さて、2人はこの町を前にして、今度はどんな手を使おうかとひとしきり相談するが、自分達は身分の高い者であると偽ることに意見が一致する。先ず訪れた旅館では、従者を装うクリスピが威丈高な態度で旅館の亭主を圧倒し、自分達が身分の高い者であると信じ込ませてしまう。暫くするとこの旅館に大尉とアルレキがやって来る。クリスピはこの2人をこれ以上はできないと思う程、誉め称え、これ程優雅な賞讃を与えてくれる方は、定めし身分の尊い方であろうと思込ませてしまう。そしてこの4人はお互いを称え合って乾杯するのであった。

第一幕第二場

この町に、ドニヤ・スィレナという、高貴な家柄の婦人がいる。彼女はもうかなり以前に夫を亡くし、今は残り少ない遺産で、その伝統と名誉ある家名を保つことに一生懸命になっているのであった。今、彼女は夜会を催すための準備に忙殺されているのであるが、町に使に遣った姪のコロンビーナが持ち帰った知らせに阿然とするのであった。それは給仕も、料理人も仕立屋も、前払いでなければ今宵の夜会には何も用立しない、という知らせであった。憤激と困惑に捕えられたこのドニヤ・スィレナの許にクリスピが現われ、今夜の夜会の準備は、全て御主人レアンドロ様が取計いまいしょうと申し出るのであった。そしてその夜会において、御主人のレアンドロ様が、この町1番の大金持ちポリチネラ氏の一人娘スィルビアと恋に陥るようにお取計い下されば、お礼として10万エスクード差上げまいしょうと耳打ちするのであった。その無礼な言葉にドニヤ・スィレナは侮辱を感じるのであったが、金の魅力に引かれてその役を引き受けるのであった。さて、そのような裏面工作を背景にして、その夜の夜会で、スィルビアは計画通りレアンドロと恋に陥ってしまうのであった。

一方、父親のポリチネラ氏に向って、クリスピは、お前の娘をあのレアンドロという男には近づけるな、と忠告するのであった。それは、勝手気尽に育った娘に、その意志にかなわないような方策を講じておいて、一層盲目的にレアンドロを慕うように仕向けさせようとする深謀遠慮であった。

第二幕第一場

さて、クリスピがこの町の人々にこうした種々の利害関係を植付けながら、幾日かが経った。が、やがてこの町の人々の間にある疑惑—彼等はマヤカン者ではないかという疑惑—が広まった。折も折、この町に法律博士と捕縛吏が、彼等を追ってやって来る。さあ町は上へ下への大騒ぎ。騙された金を返せと皆がレアンドロの邸宅へ押掛けて来た。この猛り狂った人々を向うに回して、クリスピの弁説は一段とさえ、得々と語るのであった。「皆さん、今我々を捕えたとして何になります？ あなた方のお金を取返せるわけではないでしょう。ですが皆さん、私の御主人のレアンドロ様とスィルビア嬢が今御結婚なさるとおもってごらん下さい。ポリチネラ氏はこのことに大反対なのですが……、そうすればレアンドロ様は莫大な持参金を手になされ、皆様方のお示し下さった御好意と御骨折に対して、十分お酬い申し上げられるというものです。宿屋の御亭主には御用立下されたお金を、パンタロン氏にはお借し下されたお金を、またスィレナ様にはおつくし下された御尽力に対して、そして他の全ての方の利害関係をも、レアンドロ様が御結婚なさることによって埋合せです。さあ皆さん、私共を捕縛されますか？ それともあの2人を結婚させて、御自分の利害をお満たしになりますか？ どっちにします？」

ひとしきり皆はざわめいていたが、自分達の損得勘定に照らして見て、2人を結婚させることに意見が一致するのであった。そしてこの結婚に依然として猛反対のポリチネラ氏を押し切って2人を結婚させてしまうのであった。それによって各人の利害は各人の思うように納まり、2人は結婚でき、まずはめでたし、めでたし。

ペナベンテについて

作者ペナベンテは1966年8月12日マドリッドに生れ、大学では法律学を修めた。が、彼の劇文学に対する情熱は強く、法律で身を立てる当初の考えを捨てさせてしまった。色々な人々との巾広い接触は彼の作品において明らかである人間性の知識なるものを大いに備えつけたのである。又かなり多くの旅行をしているが殆んど全て彼の文学活動の中心はマドリッドであり、彼を他の場所と結びつけることは不可能である。彼の生涯における主要な出来事は劇場と結びついておりその劇作の研究を通して最も良く具象されるものである。彼の父、マリアーノ・ペナベンテは医者で彼がペナベンテに与えた影響はすこぶる大きかったと思われる。ペナベンテの劇場に対する熱情はかなり早くから目覚めていた。少年の頃は自分が出演できる様な小規模な劇作をすることが楽しみであった。彼は劇作よりも上演することにより大きな情熱を注いだ。ごく最近でも「自分は劇作家にならずに役者になった方がましだった」とさえ述懐しているのである。事実彼は舞台上に立ったこともあったのである。彼は劇のことなら何にも興味を示している。劇作、上演、役者、劇の歴史の研究、そ

の批評、美学的原理について、芸術と経済的成功の関係等。彼は観衆と一諸に働くこと、そして観衆を喜ばせ、楽しませることに幸福を見出したのである。

みどころ

「人間が成功する秘訣は、人の同情を集めることではなく、自分の周囲に恰好な利害関係を作り上げ、その均衡の上に座を占めることである。」これはいままで幾度が諷刺劇としてとりあげられてきた題材である。作者ペナベンテは利害関係というものは、その性質がどうであれ、その存在を無視することができないばかりか、人間生活を引張っていく強力な推進力であると言っている。同時に又、「人間生活はこうした利害得失といったもので簡単に割り切れるものかどうか」という問題に対し、明白な解答を与えているのである。利害によって構成された人間模様を描き出すと共に、人間関係を作り上げるものとして、人間の愛に大きなスポットをあてているのである。この劇は17世紀初頭を舞台にした諷刺劇であるが、今日の社会にも又相通じるものがあるのではなからうか。

ひとこと

我々スペイン語科の劇は今年で7回目の誕生日を迎えました。昨年までスペインのオペレッタとも言うべきサルスエラ (Zarzuera) を上演し幸いにも好評を博し、上智名物の一つとなっておりますが、今年は趣を変えて純文芸物を取り上げて見ました。

スペイン語という耳慣れない言葉の上に歌も踊りもないので、いかにしてお客様を魅きつけるか心配致し、敢ましたがえてこの作品を取り上げて我々の力を試してみたいと思います。分りやすいミュージカル形式は兎角表面的なものになりがちな弊がありますので、今年は多少内容のあるものを中心掛けましたので、じっくりとした劇を芝居本位でお見せすることが出来ると思います。

この「作り上げた利害 (Los Intereses Creados)」は1907年12月9日マドリッドで初演されて以来、スペインでは再三上演されているものです。作者はこの作品によってノーベル賞を受けたハシント・ペナベンテです。彼一流のユーモアと皮肉は今日でも歓迎されています。舞台は17Cですが、今日にも相通ずる諷刺喜劇と言えましょう。この劇は、我々スペイン語劇準備委員会とイスパニア語科の先生方が一致して推されたものですからきっと皆様にも喜んでいただけると思います。今年は美術担当者を配し大道具等凝るつもりでスタッフ一同張り切っています。また、セリフをよく理解していただくために、スーパーインポーズをつけてお客様の御便宜をはかりますので、スペイン語に初めて接するお方もお誘い合わせしてお出下さい。

タイプライター

西独の誇る
Adler Typewriter



(Tipper)

○英、仏、独、西各国話があります

世界水準を行く
Brother Typewriter



(Valiant)

東京都中央区日本橋通り三丁目四番地

中央ビジネス・マシン株式会社

電話千代田 (271) 2060・2080番

The Leprechaun

—レプレコン—

作 ルス・エンジェル・パーキイ

10月25日 P.M. 3時45分より

E. S. S. 主催



1956. カリフォルニア・リメル・シアターにて初演の時の“ヒムセルフ”

ス タ ッ フ

演出	矢部 春 雄(4年)
演出助手	斎藤 潤一郎(4年)
	日野 和 夫(3年)
大道具	田村 奉 信(1年)
	古川 憲(1年)
小道具	鈴木 雍 子(2年)
	野上 紘 子(1年)
照明	森下 徹(2年)
	鷲田 夏 栄(2年)
衣裳	中田 情 子(3年)
	原 八重子(2年)
音楽効果	平石 冷 子(3年)
	吉村 豊太郎(1年)
メイクアップ	居串 紀 子(2年)
	清水 勉(2年)
マネジャー	高橋 勝 久(2年)
顧問	フォーブス神父

キ ャ ス ト

ヒムセルフ……………	西 三 郎(2年)
(レプレコンの王)	
イーガン・マロイ……………	川 原 真 人(2年)
(靴屋実はレプレコン)	
ジョン・マカーシ……………	石 井 将 博(1年)
(貧しい漁師)	
ケイティ・オドナハン……………	平 岡 緑(1年)
(村の人気娘)	

絵に描いたように美しいアイルランドには、数えきれない程沢山の面白い妖精や小人の伝説が、まるでこの世の中に本当にあるかのように語り継がれている。この「レプレコン」もその一つで、ファンタジックな物語です。

アイルランドの南部、クレア郡、ラバシェーダ村での話。この村に、ついこの間から、名をイーガン・マロイという非常にうでのたつ靴屋が住んでいる。イーガンは、元はと言えば、“レプレコン”（小人）の国の立派な靴屋であった。そして、ある日やぶのかげから野原で踊っていたかわいらしい娘を見るまでは、小人の国で幸せに暮していた。彼は、一目で娘が好きになり、どうしても新しい村の靴屋としてラバシェーダ村へ行かねばならないとのいつわりの理由で王様から許しを得て、人間の靴屋に変装し、娘の住む村に住むことになった。

内気なイーガンは、自分の思い詰めた切ない気持をどうしてもケイティ（娘）に打ちあけることが出来なかった。それで、彼は心から大好きなケイティに、次から次へと新しい靴を作ってやっていた。（いつの日か、彼女が自分の気持に気付いてくれるだろうというはかない望みを抱きつつ。）

今晚もイーガンは、ケイティの新しい靴を作っていた。家の外では冬の肌を刺すように冷たい風が烈しく吹きまわっていた。イーガンは、ランプのかすかな光のもとで、仕事に全く没頭していた。すると、突然、入口から一陣の風がびゅーと音を立て、緑がかかった、気味の悪い霧を運びこんできた。そして、その気味の悪い霧と共に、一人の背の高い、長外とを着た男が入ってきた。イーガンは、不意の訪問客に驚き、その場に立ちすくんでしまった。“オー、王様だ！”そうです。それは、イーガンをつれ戻すために、フクロウの背に乗りつらい旅をして、わざわざやってきた小人の国の王様だったのです。王様はくるなり、小人が人間と恋をすることのおろかさをイーガンに悟し、自分と一緒に、帰りを待っている仲間の所へ帰ろうと告げるが、恋をしているイーガンは、最初それに従おうとはしなかった。イーガンの頭は、彼女のあの小さな足、あの軽やかな歩調の足に合う靴を作ることで一杯だった。だが、人間は小人を愛することが出来ないと王様に言われると、小人の国の掟を破る意志のないイーガンは、ケイティとの愛をあきらめて、王国に帰ることに同意した。とは言うものの、イーガンは、きっぱりとケイティをあきらめ切れず、かすかな望みを求めて、王様から、ようやく、翌日の夕方までの滞在許可を得ることができた。

イーガンは、ケイティのような娘と一緒にになれるような柄じゃないと王様に言われたのが気になり、彼が去ってしまうと、ポケットから鏡をとり出し自分の顔をあれこれと調べていた。

その時、貧しい漁夫のショーン・マカーシが漁からの帰り足で注文の靴をとりに入ってきた。今日も又獲物がなく、ただ、ぬれた漁網がどっしりと彼の肩にのしかかっていた。身も心も完全にびしょぬれた。村の男達のあこがれのケイティと結婚しようにも金のない彼は、見るにもあわれな程にしょんぼりしていた。彼は、絶望して銀行ギャングにでもなるか、レブレコンでも捕えなければ彼女との結婚もかなわないだろうと、ため息まじりに言った。イーガンは、それを聞いてびっくりしてしまった。それでも、彼は、不安ではあるが、好奇心にかられて遠回しにレブレコンについて質問した。ショーンは不漁のことも一時忘れ、自分の知っている事一もし、レブレコンを捕えその目をじっとみめると、レブレコンからつぼ一杯の金貨がもらえる事、それに、小さな赤い服、まだら模様の帽子、大変背が低いとかレブレコンを見分ける方法一を得意げに話した。それから、小声でおばあさんから聞いて知っている、レブレコンを捕える最も確実な唯一の方法である“魔法の調べ”のことも言った。レブレコンがこの調べを耳にするや否やくると回り出すということだ。イーガンは、今や得意になったショーンに吹いてみようかと言われ、腰が抜ける程びっくり仰天してしまった。

やっとのことで話題を変え、今晚ダンスへ行くなら家へ帰って身仕度くした方がいいんじゃないかと言って、ショーンを追い出すことに成功するかにみえた時、村の男達の人気者、ケイティ・オドニハンが陽気に踊りながら入ってきた。“ダンスだって！”二人は、彼女の不意の出現におどろいた。ショーンは、ここぞとばかり今晚のダンスのお伴を申し込んだが、彼女は貧しい彼をてんで相手にしなかった。それでも彼は熱心に……。しまいには、ショーンの烈しい調子に圧倒されたケイティは、今晚彼とダンスに行く約束を結んだ。喜んだショーンは、飛ぶように家へ帰っていった。新しい靴を忘れて、ところが彼女は、彼と行く気なんか全くなかった。

恋がたきの敗北に内心喜んだイーガンは、遠回しに彼女の気持を探ろうとするが、ケイティはすばらしく出来た新しい靴に心をすっかりうばわれてしまっていて、一向に彼の思惑どろりには反応を示さなかった。ケイティの心は、金持との結婚による豪華な、自由気ままな生活を思いめぐらしていた。侍女の沢山いる、あり余る程の宝石のある生活を、イーガ



ピアノを御自由にお弾き下さい。
 ジュークボックスでお好きな曲を。
 有名人の落書きを多数展示中です。
 クラス会・ティーパーティには是非
 当店を御利用下さい。

喫茶・洋食

鳩ポッポ

神田店 TEL 201-6880
 麴町店 TEL 301-0310
 本店 TEL 561-4801
 銀座店 TEL 561-4802

ンは、靴作りの技術をほめられ、口をすべらし王様が自分をむかえに来たことを言ってしまった。“王様がですって、!” 急にケイティの顔は輝きはじめた。ケイティは、その王様がいわゆる国王でないのを知り失望するが、金持ちの郷土であることがわかると、又元気をとり戻した。彼女は、その金持ちの所へ連れて行ってくれるよう彼にたのんだ。イーガンは、彼女がてっきり自分に気があるとばかり思っていた。だが、彼女の心は自分ではなく、金持ちの郷土の方へ向いていることを知ったイーガンは、自分のおろかさど、彼女への失望のあまり全く絶望してしまった。

絶望のあまり平静を失ったイーガンは、自分の中にレブレコンの本性が無意識のうちに頭をもたげているのに気づかなかった。そして、自分はそのいらいにいる普通の靴屋とは異り、大変な金持ちなんだと言ってしまった。ケイティは、彼は気が狂ったんじゃないかと思ひ、誰が靴なんかを作っていて金持ちになれるものかと軽べつして言った。先刻忘れた靴を取りに来たショーンは、壁のうしろにかくれ、二人の話を聞いていた。彼は、イーガンがデリマサガート山脈や、マクガリカディに住むという靴屋の話におどろいたのを見て、飛び出して行った。そして、イーガンの両肩をがっちりつかんだ。ショーンの突然の出現にケイティとイーガンの二人は、全く驚いてしまった。ショーンはぼう然とした二人をよそに、“魔法の調べ”を吹き始めた。するとイーガンはショーンの手から離れ、クルクルと次第に速く回わり始めた。ケイティは全くあっけにとられてその場に立ちすくんで、その不思議な情景を見つめていた。ショーンは、イーガンのポケットから沢山の金貨を取り出し、それをケイティの方へさし出した。彼女は狂喜して手からもれ落ちた金貨を一個一個ひろい集めた。

今や、伝説のレブレコンを捕えたショーンは、貧しい漁師から一っぺんに大金持ちになった。二人は今晚にも教会へ牧師を訪ね、結婚するだろう。

結末ですか? イーガンは、二人は結婚の祝いとして新しい靴を贈り、それらにレブレコンのおまじないをかけてやった。幸運のおまじないを。すると、どうなったと思いますか。二人は腕をくんで歩こうとするが一步も歩けなくなったのです。イーガン(レブレコン)は、泣き叫ぶケイティとショーンに“その金貨を貧しい、ほんとうに必要としている人々にあげれば、まじないは自然にとけ、自由にダンスが踊れるようになる。”と言ひ残すと、帽子を深くかぶり、長外どのえりを正して、風の強く吹きすすんでいる冬の夜の暗やみの中に姿を消して行った。あとに残ったのは、炉火にうかび上っている二人の姿と、イーガンの高々とひびいている笑い声のみだった。

“アッハッハッ……”

外では風の音がさらに激しくなっていた。

E. S. S. 演出雑感 「ひとこと」 矢部 春雄

私達 E. S. S. の語劇祭参加も今年で4回目になった。上演々目もいろいろと多方面にわたっている。即ち、戦争犯罪をテーマとしたメロドラマの「勇者」、英国の道德劇の中で最もすぐれているといわれている「エヴリマン」、ギリシャ悲劇中最大の「エディプス」、そして今年、北の国はアイルランドの民話を素材とした喜劇的要素を含んだファンタジーの「レブレコン」と。

私は、二年程前にこの「レブレコン」を読み一度は上演してみたいと考えていた。それが今年実現出来たので、非常にはりきって練習を開始した。

舞台効果の重要さはどの劇においても同じだが、この「レブレコン」程、舞台効果の役割が大切な劇もめずらしいでしょう。劇中におけるファンタジックな雰囲気を出すための装置、照明、音響効果をはじめ、その他の舞台の工夫が大変です。それ程までに、この「レブレコン」の成功はスタッフの努力にかかっていると言っても過言ではありません。

例年のごとく5月にキャストの選考を終了、6月の声を聞くと同時に練習を開始した。それから何時間も、何日間も、何週間も、何ヶ月間もの辛い、そして厳しい練習が続いた。しかしこの苦しい努力を続けてきたスタッフ、キャストの協力の中には、人間の学問的な限り無い成長が期待できると固く信じている。

我々は、練習の進行と共に数々の精神的技術的な困難悩みにぶつかってきた。その度毎に、皆んなの熱意とフォーブス神父の指導によりそれらを克服してきた。私自身も実に苦しかった。人を引っぱって行く難しさ、それに自分の指導力、統率力への疑問等と。だが又楽しい経験だった。

スタッフとキャストの協力、いや E. S. S. 全体の努力の結果を皆様におみせできますことを我々は、非常にうれしく思います。

最後に、多大な御支援をして下さいましたフォーブス神父様にここで厚く感謝致します。

さあ、開演を告げるベルの音が聞こえてきました。全てが楽しい思い出の頁におりこまれていく。我々は、この日をこの時を待っていました。

さあ、ゆっくりと、「レブレコン」を御鑑賞して下さい。

Spreading the News

— 噂は拡がる —

(喜劇 1 幕)

作 Gregory

10 月 25 日 P.M. 2 時より

英語学会 主催

ス タ ッ フ

Director (演出)	森 碩 哉(C31)
Stage Director (舞台監督)	小 暮 光 幸(C31)
Stage (装置)	佐 藤 剛 志(B31)
Light (照明)	加 藤 達 子(A32)
Costume (衣裳)	須 藤 美 智子(A32)
Make-up (化粧)	栗 山 弓 子(B3)
Music (音楽)	岡 賢 一(B31)
Manager (総務)	山 中 勝 照(B31)
Adviser (指導)	Fr. Mason

キ ャ ス ト

バートリ・ファロン (Bartley Fallon)	森 碩 哉(C31)
ファロン夫人 (Mrs. Fallon)	高 山 孝 子(B32)
ジャック・スミス (Jack Smith)	設 楽 雅 司(B31)
ショーン・アーリー (Shawn Early)	今 村 博 展(B31)
ティム・ケーシー (Tim Casey)	鈴 木 弘 志(A31)
ジェイムズ・ライアン (James Ryan)	小 島 二 宏(A31)
ターピー夫人 (Mrs. Tarpey)	水 津 明 子(B32)
タリィ夫人 (Mrs. Tully)	村 上 桃 子(B32)
ジョー・マルドーン (警官 Jo Mulddoon)	安 川 洋 三(B31)
新任の町長 (A Magistrate)	大 竹 正(C31)

あいさつ

発足して以来、すでに五年目に入った上智大学英語学会 (Sophia English Language Federation) 略称セルフ (S. E. L. F.) が初めて語劇祭に参加し、英語劇を上演出来る事は大変うれしい事であります。この機会にセルフを知っていたく為に、その沿革を書いて見ましょう。

セルフ (S. E. L. F.) 設立の目的は、英語科長野口教授、生活課次長のニッセル神父を常任顧問に英語科という一つの共通点の下に、教授、諸先生を含めて一年から四年そして同窓生との結びつきを緊密にする事を第一目的とし、第二には、ややもすると社交場と化す傾向のあるクラブ活動よりも、より academic な、或いは practical な英語科独自の課外活動の機会を持つことにある。

毎年、雑誌「SELF」や、「先輩便り」を発行し、夏休みの初めには、商業英語講習会を他学部にも公開し、夏の終

りには、新入生を中心としたサマー・キャンプを行っている。今年の夏には、英語科教授マッククニー神父を中心に香港へ一ヶ月間英語研修の為、SELFから20名参加した。来年には、サン・フランシスコへの研修が予定されている。新学期始まる秋になると、就職懇談会が三年の為に開かれ、又英語科内だけのダンスパーティが催されセルフ内の親睦を深めている。その他、スピーチコンテストへの積極的参加による上位五位独占等々の目覚ましい活躍があるが、今年から新たに Study Group と英語劇の上演を加えました。

メイスン神父に御指導していただいて、短い(30分位)聞き間違いから起る悲喜劇という会話に妙味のある作品を選びましたが、何分にも最初であり、全くの素人でありますので、何卒、今後の活躍を暖かく見守って下さるようお願いいたします。

あらすじ

定期市のあったある片田舎の町。新しく赴任してきたうぬぼれの強い町長が、警官の Jo Muldoon とこの町が無秩序なのを嘆き、治安維持を強調している。そばの露店でリンゴを売っている耳の遠いおばあさんの Tarpey に町のことを聞いても一向に通じず困って退散する。

そこへ定期市から帰る途中の Fallon 夫妻が登場する。Fallon 氏は商売が上手くいかず、いつも不運な自分の運命について夫人に愚知をこぼしている。とそこへ干し草用の熊手をついだ赤毛の Smith が歌いながらやってくる。彼は The Five Acre Meadow での干し草の契約に行く途中であった。Smith が Fallon 氏と挨拶して去った後、彼が熊手を忘れていったのに気が付き、Fallon 氏が彼の後を追いかけてきた時、夫人の買い物かごを引っくり返してしまう。その後へと Casey がやって来て、路上に散らばった光景を見、Tarpey の話を聞いて『Smith 氏が Fallon 夫人の買い物かごを蹴っ飛ばし怒った Fallon 氏が熊手を持って追い掛けて行った』と一人合点してしまう。

たちまちこの小さな町に噂が広まり、耳の遠い Tarpey さんが“hedge”を“dead”と聞き違え、或いは「the Red-haired man's Wife」という Smith の歌う歌の題を「Red Smieh's wife」つまり Kitty Keary と間違えた事から、人々の誤解と邪推が始まり、噂は遂に「Fallon 氏が Smith を熊手で殺し、Kitty Keary とアメリカへ駆け落ちした。」という事になる。そこに当人の Fallon 氏が現われ噂を聞いて狐につままれたような彼を警官は逮捕する。その時、死んだはずの Smith が熊手をついでやって来る。話を聞いて怒った Smith と Fallon 氏があわや決闘という始末になり、二人共警察に連れていかれる。

劇の特徴

これは一幕の短い劇にかかわらず喜劇にも悲劇にもなり得る。噂という人間の弱点を主題とした作品で、女流作家による。耳の遠いおばあさんによる聞き違えというような、細いニュアンスを持った会話によって、英語の妙味を味わっていただきたい。

**若い世代の
頭脳が躍進す
る日本企業の
尖兵**

日本企業の海外進出の一助として世界各地の雑誌、新聞、ラジオ、テレビ映画その他あらゆる媒体を通じての広告、P.R.の企画立案

国際広告代理店

株式会社日活アド・エイジェンシー

港区赤坂溜池町13番地白亜ビル
TEL: 481-4377・4380

語劇祭委員

委員長 柴野邦彦(B34)	ドイツェルリンク
副委員長 阿部文隆(B37)	真田守之(B33)
フランス文化研究会	青山貫一郎(B33)
橋本借子(C34)	宮坂洋光(B10)
滝沢裕(B47)	中山和子(B3)
ロシア、ソビエト研究会	スペイン文化研究会
三浦照康(B37)	青木康征(A36)
E・S・S	吉村了衣(A35)
岩淵忠敬(B33)	セルフ責任者
清水勉(B41)	山中勝照(B31)

編集後記

この度の語劇祭は創立五十周年記念ソフィア祭の一環として行なわれます。独立したパンフレットを作成して未だ二度目ではありますが、この記念行事にふさわしい号といたし度、張切って企画編集いたしました。

各クラブの劇の内容、解説にだけに届らず今日の語劇を育てて来て下さった諸先輩からも寄稿していただき、私共の知らない上智の語劇のあり方に触れてみました。伝統ある私共の語劇をここでもう一度振り返ってみることに意義があると思います。

ここにお忙しい中をご寄稿、ご協力下さいました諸先輩をはじめ、皆様に厚くお礼申し上げます。

(編集子)



やっと終わったわ!



日興産業株式会社

代表取締役社長 渡辺慎介

本社 東京都千代田区丸の内2丁目2番地

八幡出張所 八幡市枝光814 (製鉄ビル)
 光出張所 光市大字島田3317 (高橋ビル)
 姫路出張所 姫路市駅前町210 (駅ビル4階5号)
 大阪出張所 大阪市西区靱南通4~11 (岡崎橋ビル)

釜石出張所 釜石市中妻栄町1~39
 室蘭出張所 室蘭市輪西町十条通り
 名古屋出張所 名古屋市中村区西柳町1~11
 (名古屋総合市場ビル)
 佐世保出張所 佐世保市光月町11

砂防会館ホール案内図



都電 平河町二丁目上ル 地下鉄 赤坂見附 徒歩五分

麻雀 麴町クラブ

学割有ります

A.M. 10~P.M. 11.30 TEL (331) 4622

マンション

お茶とお食事

御集会にもご利用下さい

A.M. 9~P.M. 9.30 TEL (301) 3743

Archer-Daniels Midland Co., (ADM)	樹脂			
aker Castor Oil Co. roy Chemical Co. (M)		添加剤		
utoblend Co. isher & Co.			接着剤	
				調色機

横浜化成株式会社

東京・港区芝田町2-6 TEL (451) 8266 代

ヤマハエレクトーン E/1型



E-1 ¥647,000

教会の荘厳な音色
パイプオルガンの魅力!!

ほかに ■ D-1型 ¥350,000
■ B-1型 ¥248,000
■ A-2型 ¥128,000



日本楽器東京支店

銀座7丁目 TEL (572) 3111 代表



短波も聞ける
¥5,600
7石の高級形

YOUNG 7



語学の伴侶

“カレッジ^{エース}A”
¥19,800

東芝 シャープ ナショナル 日立 日本電気 新日本電気 コロンビア ミツビシ 三菱 ソニー

Electric Equipmeur

Sgeucy; Toshiba, Sharp, National, Hitachi, N. E. C, Colombia, Mitsubishi, Sony

SEIKI SANGYO CO., Ltd.

4-Kanda Motosakuma-Cho Chiyodaku-Tokyo.

(831) 1241, 1242, 1243, 1244, 0534, (832) 6605, 8338

麴町ハイツ地階

麴町ピリヤード

Tel. (331) 1563

3 クッション 1台
ローテーション 1台
四ツ球 3台

早朝学割 1人1時間 100円
(12時迄)

学割 1人1時間 130円

第4回語劇祭パンフレット ¥70.

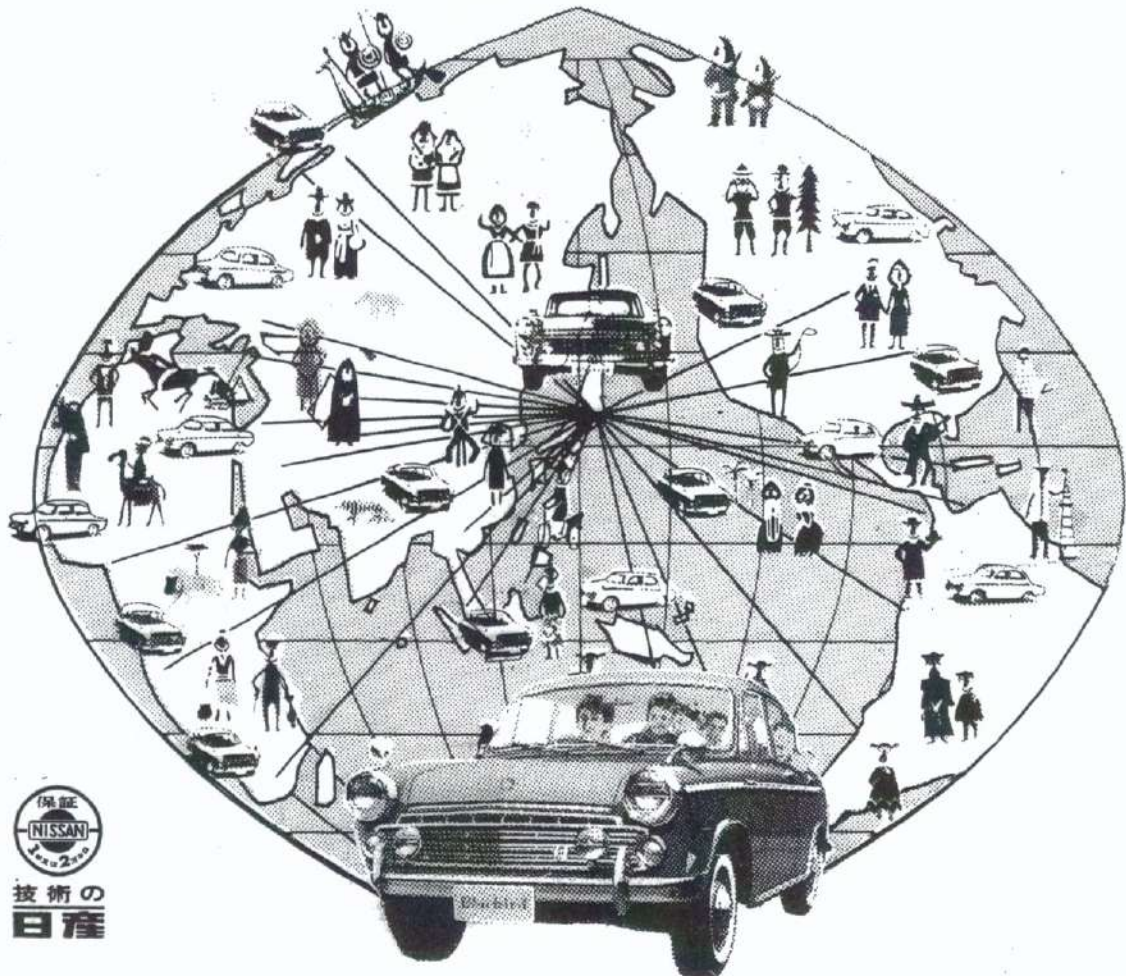
昭和38年9月10日

発行

上智大学語劇祭委員会
東京都千代田区紀尾井町7

印刷・第一印刷

輸出あつての貿易自由化です



技術の
日産

西欧でも主流は一二〇〇ccです

ブルーバードは、3年と数カ月で早くも20万台を突破しました。洗練された美しいスタイル、高性能で経済的な一二〇〇ccエンジン、5人乗り乗用車で唯一のフルシンクロ、オートクラッチの魅力などで、国内はもとより世界60数カ国で愛され、親しまれています。

またも輸出の新記録!

世界を駆ける日産製品は、最近の輸出実績でも、ブルーバード一車種だけで二、〇〇〇台を突破輸出でも日本一を独走しています。ブルーバードを中心とする乗用車はアメリカ、中近東、アフリカ、極東の各地域で大きく伸び、「技術の日産」、「輸出の日産」の名声を高めています。

DATSUN **ブルーバード**

1200cc・55ps / 1000cc・45ps / 5人乗

NISSAN

顧客と共にあゆむ 日産自動車